



ISO/TC211 第27回総会 つくば

関係機関・企業のご支援をもちまして、ISO/TC211第27回総会が、平成20年12月1日(月)～5日(金)、つくば国際会議場にて開催されました。

ISO/TC211は、国際標準化機構 (ISO) において、平成6年4月に211番目のTCに設置された地理情報に関する国際規格の制定や改定を検討する専門委員会です。測技協は平成7年からISO/TC211の国内審議団体 (ISO/TC211国内委員会) として活動を続けています。ISO/TC211には、現在日本を含む投票権を有する正式メンバーとして31ヶ国、オブザーバーとして30の国と地域が参加しており、年にほぼ2回の総会を開催しています。日本では平成11年に第9回総会が京都で開催され、この度の総会 (つくば) が2度目の開催となりました。

地理情報標準に関しては、平成19年に成立した地理空間情報活用推進基本法に基づく基盤地図情報の提供時に使用することが定められるなど、わが国のISO/TC211活動の成果が世界に先駆けて公的にも生かされようとしています。わが国の測量・地図データ整備・GIS等のビジネスに深く関わるISO/TC211の活動にご理解を賜り、本総会 (国際会議) が成功裏に開催されましたことを、この場をお借りして感謝いたします。

- 開催日：平成20年12月1日(月)～5日(金)
 - 開催地：茨城県つくば市 つくば国際会議場
 - 参加国：Pメンバー (決議権有り) 20ヶ国：
 - オーストラリア、ベルギー、カナダ、中国、デンマーク、フィンランド、ドイツ、韓国、マレーシア、オランダ、スイス、タイ、イギリス、ノルウェー、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、スウェーデン、アメリカ、日本
 - Oメンバー (議決権無し) 1ヶ国：インドネシア
 - リエゾン団体 (関連機関) 14団体：FIG、ISPRSなど
 - 参加者：総数 148名 (海外からの出席者 95名)
 - 主なプログラム：
 - (1) 分科会活動 (12/1～3)
 - WG 4
 - WG 6 (EC19130)
 - WG 7 (PT19150、PT19152、EC19144-2)
 - WG 9 (PT19103、PT19113)
 - WG10 (PT19147、PT19148、PT19151、PT19154、PT19155)
 - PMG (プログラムメンテナンスグループ 3部会)
 - AG (アドバイザーグループ 2部会)
 - (2) 議長・WG座長会議(11/30)
 - (3) ワークショップ (12/3)
 - (4) オープニングレセプション (12/1)
 - (5) テクニカルツアー (12/2)
 - (6) 開催記念レセプション (12/3)
 - (7) ガラディナー (12/4)
 - (8) 総会 各種報告 (12/4) 総会 各種決議 (12/5)
 - (9) スポンサーパネル展示 (12/3 6社、3団体)
 - スポンサー：会員企業 39社、関係機関 14団体
 - 後援者：経済産業省、国土交通省国土地理院、海上保安庁、他関係機関 5団体
 - 事務局：測技協 国土地理院 国際航業 パスコ
 - 総会での主な決議等
 - 基盤地図情報の整備に関する規格の整備
 - ・19118 (符号化)
 - 委員会案 (CD) から国際規格案 (DIS) へ移行
 - ・19107 (空間スキーマ)
 - ・19109 (応用スキーマ)
 - ・19110 (地物カタログ)
 - ・19115 (メタデータ)
- 初回の定期改正作業を開始
- ⇒上記の規格が改正された場合、基盤地図情報の技術上の基準の告示の改正、JPGIS (地理情報標準プロファイル)、JIS、公共測量作業規程の準則にも影響



する可能性がある。

- 「場所識別子のアーキテクチャー」を国際規格として作成することの確認
- PDFの地理情報への拡張(Adobe Geospatial Extensions)の国際標準化についてTC171(文書画像アプリケーション)とTC211(地理情報/ジオマテックス)との間で連携関係を構築するよう、TC211から働きかける
- 28回総会:2009年5月28日、29日 ノルウェー・モルレ



地理情報標準オープンフォーラムつくば

- 開催日:平成20年12月3日(水) 10:00~17:00
- 主催:国土交通省国土地理院
- 後援:総務省、経済産業省、ISO/TC211国内委員会
- 開催場所:茨城県つくば市 つくば国際会議場 大ホール(エポカルつくば)
- 参加者数:245名
- スピーカーと演題:
 - (1) 国土地理院長 小牧 和雄(開会挨拶)
 - (2) ISO/TC211議長 オラフ・オーステンセン(ISO/TC211の活動を語る)
 - (3) スウェーデン団長 エリック・ステンボルグ(スウェーデンにおける地理データの現状と標準化)
 - (4) 経済産業省室長 井上 幹邦(ISO国際標準化と日本の取組)
 - (5) 国土地理院室長 大木 章一(国土地理院の取組)
 - (6) 総務省課長補佐 石川 家継(統合型GISの取組とISO/TC211について)
 - (7) 富田林主幹 浅野 和仁(地方自治体における地理空間情報の標準化)
 - (8) 慶応大学准教授 植原 啓介(PI(場所識別子)は何をもたらすか)
 - (9) 奈良大学教授 碓井 照子(標準化活動とGISの将来)
 - (10) 東京大学教授 柴崎 亮介(地理空間情報の標準化と空間情報社会の可能性)
 - (11) 国土地理院参事官 木下 賢司(閉会挨拶)
- 事務局:(財)日本測量調査技術協会

